

はじめに

Introduction

大國 充彦

社会・意識調査データベース SORD (Social and Opinion Research Database Project) は、社会情報学部創設の 1991 年 4 月以降、学部の研究事業として活動を行ってきている。ここでは、SORD の活動を 3 つの時期、立ち上げ期 (1991~2000 年)・展開期 (2001~2010 年)・収束期 (2011 年以降)、に分けて、活動のねらいと特徴、実際の活動とその成果、さらには、副産物や潜在的な可能性について提示する。3 つの時期について、その概要を執筆するのは、それぞれの時期に社会情報学部で中心的に SORD にかかわったメンバーである。立ち上げ期は新國三代、展開期は中澤秀雄、収束期は大國が担当している。

SORD は学部創設時の田中一学部長の肝いりで、新しい学問分野の名前を冠する新しい学部の立ち上げに際して、社会情報学を醸成するための母胎として設置された。黙っていては、新しい学問は立ち上がらないので、何らかの仕掛けを作り、実際の活動をまず始めることが先決と判断したと考えられる。一方では、学外的に社会情報学会という学会をまずは立ち上げ、その器に多種多様な研究者が集うところから新しい学問をスタートさせようと試みた。他方で、学内・学部内に SORD という共通の土俵を設定し、そこに専門の出自が異なる研究者を集めて、一つのプロジェクトを成立させ、そこから社会情報学という新しい学問の母胎を築くという考えだったと思われる。

立ち上げ期・展開期の 2 つの時期の SORD に共通する特徴は、学内メンバーの集結地であると同時に、学外研究者・学外関係者とのネットワークを形成する拠点として機能したことである。学内メンバーだけでプロジェクトを立ち上げ、展開させようとするのではなく、むしろ積極的に学外の研究者・関係者とかかわりを持ち、交流を深めていく努力をしてきた。学外の関係者、とりわけアクティブな研究者との関係を築くためには、SORD メンバー自身の地道で堅実な作業の積み上げがなくてはならない。この点で、立ち上げ期・展開期の SORD メンバーが達成した成果は、学外関係者から評価され信用されるに足るものだった。その結果として、社会情報学部の SORD は、研究領域ではもちろん、関連諸領域でも、地味ではあるけれども一定の評価を受けるようになり、またある程度の貢献もなしている。立ち上げ期・展開期の具体的な活動については、新國・中澤両氏の論考に詳しい。

SORD は 2011 年以降、収束期を迎えている。立ち上げ期・展開期に収集・整理した調査関連資料について、2 次利用の便宜を図ることが主任務となっている。限られた予算の中で、リージョナル・データアーカイブとして何ができるのかが問われている。